

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 千早赤阪村立赤阪小学校 富山 歩

研究主題

「意図を深く汲み取りながら思考し判断し表現する力を養い
粘り強くチャレンジし続ける態度の育成」

※今年度の重点目標に _____ を引いています。

1. 学年・組 千早赤阪村立赤阪小学校 第3学年1組 (12名)

2. 単元名 「千早赤阪村をもっと有名にしよう」
～大阪に一つだけの村の歴史と食と自然～

3. 単元の目標

「村をもっと有名にしよう」についての探求的な学習を通して、地域の歴史や特色を理解しながら、他教科で学んだことや、自分たちの生活などと結びつけて学習することの良さを活かし、地域の活性化のために自分たちができることを主体的、協働的に考え、地域の一員としての態度を育てる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 地域には自然や史跡、公共施設などがあり、地域の良さや特色があることを理解している。</p> <p>② 他教科で学習したことや調べ学習で得た情報を適切に選択して使うことができる。</p> <p>③ 探求的な学習を通して学習することで、地域の歴史や特色などについての理解が深まっていることに気づく。</p>	<p>① 自分が見つけた地域の良さを伝えるために、「誰に、何を、どのように伝えるか」という学習の課題を、友達と協働しながら、自分で立てている。</p> <p>② 自分の課題に基づいて、必要な情報を（インタビュー、見学、インターネット、本などで）集めている。</p> <p>③ 集めた情報を、伝える相手や目的に合わせて比較・分類・選択し、整理・分析している。</p> <p>④ 他教科の学習を生かしたり、調べたことと組み合わせたりして、相手に分かりやすくまとめて、工夫して表現している。</p>	<p>① 「村をもっと有名にしよう」の活動から得た知識や自分と違う友だちの考えを生かしながら協働して粘り強く取り組もうとする。</p> <p>② 探究活動の中で多様な人々のつながりや意見を参考にしながら自らの学習を調整しようとする。</p> <p>③ 「村をもっと有名にしよう」の活動を通して、地域との関わりを深め、地域の一員としての自覚を持とうとしている。</p>

5. 単元設定の理由

本学級の児童は、自分の興味のあることに関しては、自分の思いや考えをすすんで伝えようとする意欲が高い。一方で、自分の思いついたことをそのまま伝えようとする傾向があり、相手の意図を正しく受け止めたり、相手に分かりやすく伝えたりする力は十分に身についていない。また、自分の苦手なことに関しては、否定的にとらえ、前向きに取り組もうとしない側面も見られる。

本単元では、自分たちの住む地域である千早赤阪村をもっと有名にするために、村の歴史・自然・食とそれに関わる店などを他地域の小学生や学生に紹介する。児童は紹介する地域の中で生活し、既に登下校や遊びを通して、地域の人、場所、自然などと多様な接点を持っているために、教材そのものが身近なものである。

地域には、歴史的な建物、豊かな自然、特産品やそれらを売る店、伝統行事、地域のために活動する人々など、多様な学習資源が存在するため、児童一人ひとりが興味を持って「知りたい」「調べてみたい」と思えるものを見つけやすい。また、教室での学習だけなく、地域学習は「本物の場所」に行き、「本物の人」に話を聞くことができる。これは、児童の知的好奇心を強く刺激し、粘り強く学習しようとする態度につながる。さらに、地域について「調べる」だけで終わらず、「地域の良さを伝える」ことをゴールに設定する。伝える相手（他校の4年生や大学生）を明確に設定することで、児童は「どうすれば伝わるか」を真剣に考える必要性に迫られる。これは、児童の課題である「相手に分かりやすく伝える力」を身につけるよい機会になる。またこれらの活動は、社会科（地図、公共施設、農家の仕事など）、国語（インタビュー、発表、文章作成）、生活科（地域探検）など、他教科で学んだ知識・技能を活用する場となるので、学びの有用性を実感させ、学習意欲の向上につながると考える。

これらを踏まえたうえで、以下のように指導・支援を行う。まず、社会科と関連させて、地域の多様なよいところに触れる機会（写真、ゲストティーチャー、地域探検など）を設け、「もっと調べてみたい」「伝えたい」という動機付けを行う。また、児童が自ら「課題（問い合わせ）」を考える際には、教師が一方的にテーマを与えるのではなく、児童のつぶやきや関心のあることがらを拾い、自分で見つけられるように支援する。そして、児童の課題である「相手に分かりやすく伝える力」を育成するため、活動をスマールステップ化する。「思いつき」を「伝わる表現」にするために、「誰に」「何を」「どうやって」伝えるのかを明確にする。また、発表のリハーサルや、友達同士での「伝わりやすさ」に関する相互評価の場を設定し、客観的な視点で自分の表現を見直す機会を設ける。「苦手なことに前向きに取り組めない」児童に対しては、個別の声かけで不安を取り除くとともに、グループでの協働学習の場を設ける。グループ活動の中で、それぞれの得意分野を活かして、「互いに助け合うことで課題を乗り越えられた」という成功体験を持たせ、児童の小さな努力や成長を具体的に認め、前向きに取り組む姿勢を価値づけていきたい。

6. 学習の流れ

各学年に年間計画を掲示していますのでそちらをご覧ください。

7. 本時の展開

(1) 本時の目標

「村をもっと有名にしよう」の活動を通して、得た知識や自分とは違う友だちの考え方のよさを生かしながら、協働して粘り強く取り組もうとする。【主体】①

(2) 本時の評価規準と想定される児童の姿

十分満足できる姿	おおむね満足できる姿	支援が必要な姿と支援法
「村をもっと有名にしよう」の活動を通して、自分とはちがう友だちの考え方のよさに気づき、それを生かして協働して粘り強く取り組もうとしている。	「村をもっと有名にしよう」の活動を通して、自分とはちがう友だちの考え方のよさに気づき、粘り強く取り組もうとしている。	先生と一緒に、友だちの考え方の良さに気づくように支援し、粘り強く取り組ませる。

(3) SE のテーマを意識した本時の目指す子ども像

「村をもっと有名にしよう」の活動を、協働して、粘り強く取り組み続ける児童を目指す。

(4) 展開 (42 / 60 時間)

時間	学習活動 (○) 研究主題に関わる場面 (◎)	教師の支援 (○) 評価規準及び評価方法 (☆) →その手立て (※)
つかむ 7分	I. 本時の見通しを持つ ○前時を振り返る ○本時のめあてを確認する。 【めあて】 みなはつの4年生が「千早赤阪村に行ってみたい！」と思う分かりやすい発表会にしよう	
深める 30分	2. 発表し合う ○グループの中で、自分のまとめたスライドを見せながら発表する。 ○発表の後、グループの友達からの質問やアドバイスを受けたり、友達の発表を聞いたりして、友達の考えを生かしてよりよい発表にするための手立てを考える。	○発表する側、きく側のポイントを確認する。 ※友達の考えの良い点を取り入れるとさらに良くなると声をかけ、粘り強く学習を進めていけるよう支援する。 ☆友だちの意見や発表をきいて、自分の今まで得た知識や自分とは違う友だちの考えのよさを自分の発表に生かそうと、粘り強く取り組んでいる。 【主体】① (行動観察・ワークシート)
いかす 8分	3. 振り返る ○全体で手立てを共有し、次時に対することを確認する。	